



目次

02-04	特集（動物作品 / 映像化作品）
05	第7回図書館ポスターコンクール
06	ブックハンティング
07	宇部高専HPのブックログ紹介
08	ひととき

動物作品

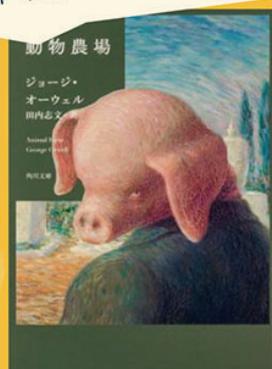
動物をテーマにした物語には、命の大切さや人とのつながりを描いた心に残る作品が多くあります。

そこで今回は、図書館学生ボランティアが選んだ動物にまつわる物語を5冊ご紹介します。

きになる1冊をぜひ手にとってみてください。

動物農場/ジョージ・オーウェル

中村 羽菜
(4年制御情報工学科)



荘園農場のジョーンズさんが眠りについたころ、大納屋には農場中の動物たちが集い、そこへミドル・ホワイト種の雄豚であるメージャーじいさんは昨夜見た不思議な夢について語りました。「それは人間がこの世から消えてしまう未来の夢だった。」「人類を打ち倒すために、日夜、全身全霊を込めて働くのだ！同志諸君、それがわしからみんなへのメッセージじゃ。」

ジョーンズさんが動物たちへの餌やりを忘れた日、そんな仕打ちに耐えかねた動物たちの不満が爆発し、とうとう人間たちを農場から追い出してしまったのです。「すべての動物の平等」を掲げ誕生した動物農場の誕生！しかし、豚たちの妙な振る舞いが始まり... 人間社会への強烈な風刺を、動物たちを通しておとぎ話のように描いた一作です。

猫語の教科書/ポール・ギャリコ

岸田 流我
(4年制御情報工学科)



皆さんは猫はお好きですか？

猫ははるか昔から人間と関わってきた生き物であり、犬と並んで"人類の友"としての地位を築く愛玩動物です。いたずら好きで甘えん坊、純真無垢で可愛い生き物。そんな猫が、もし人間たちを懐柔しようとしていたら……？

これは猫によって書かれた、猫のための本です。人間を巧みに操るための戦略と戦術が描かれた、猫たちの秘密の教科書とも言えるでしょう。

なぜ猫は私たちのベッドの真ん中で眠るのか、どうして急に走り出すのか、そしてあの魅力的な鳴き声にはどんな意味が込められているのか…。

きっと読み終わる頃には、あなたはもう猫の虜になっていることでしょう。普段の愛らしさに、どんな思惑が隠れているのか、その裏側を覗いてみませんか？

ペンギン・ハイウェイ/森見登美彦

古川 実慧
(4年制御情報工学科)



この本は、森見登美彦によるファンタジー小説で、小学四年生のアオヤマくんが主人公です。アオヤマくんは好奇心旺盛で、日々の出来事をノートに記録するのが日課です。ある日、アオヤマくんの住む町に突如ペンギンが現れ、街の人々を驚かせます。アオヤマ君はその謎を解明しようと調査を始めますが、やがて歯科医院に勤める不思議なお姉さんが、ペンギンを出現させる力を持っていることに気づきます。

さらに、森の奥で「海」と呼ばれる謎の球体が発見され、現実と非現実が交錯する不思議な現象が次々と起こります。アオヤマくんは友人のウチダくんやハマモトさんと共に、ペンギンや「海」の謎を追いながら、世界の広がりや未知の存在に触れていきます。お姉さんとの交流を通じて、彼は初恋のときめきや別れの切なさ、そして成長することの意味を学びます。科学的探究心と少年の繊細な心が織りなす、瑞々しくも切ない成長の物語です。

世界から猫が消えたなら/川村元気

山本 真咲
(4年制御情報工学科)



この本は、余命わずかと宣告された“僕”の前に悪魔が現れ、「この世界から何かを一つ消す代わりに命を一日延ばしてやる」という奇妙な取引を持ち掛けるところから始まる物語です。電話や映画、時計など消えるはずのない日常が一つずつ失われていくたびに、“僕”はそれらにまつわる思い出や人とのつながりを深く思い返し、自分がどれほど多くのものに支えられて生きてきたのかを実感します。唯一無二の存在である飼い猫・キャベツとの時間を通して、失うことの悲しみと生きる意味が鮮明に描き出されます。キャベツは“僕”と過去とをつなぐ存在としてとても重要な役割を担っており、猫好きにぜひ読んでほしい一冊です。本作は命とは何か、大切なものとは何かという普遍的なテーマを優しい筆致で問いかけ、読み手に深い余韻を残す感動作です。

優しい死神の飼い方/知念実希人

森 悠七
(4年制御情報工学科)



この本は、1匹の犬視点で語られる心温まるミステリー小説です。人間の魂の案内人である死神がゴールデンレトリバーの姿を借りて地上におり、死に直面する人間が最後に抱える未練を晴らすため、彼らの過去に隠された謎へと踏み込んでいきます。彼が向き合うのは、戦時中に引き裂かれた恋人たちの想い、古びた洋館で起きた殺人事件、色彩を失った画家が抱えた痛みなど、それぞれが深い闇と謎を秘めた物語ばかりです。やがて死神はホスピスで残された時間を過ごす患者たちの胸にしまわれた思いに触れることで、人間の温まりや優しさを知っていきます。ミステリーとしての謎解きの面白さと、登場人物一人一人の人生が描き出す感動が絶妙に絡み合い、読み終えたあとには切なさと共に心にあたたかな気持ちが残る一冊です。ぜひ手に取ってみてください。

映像化作品

今年度も多くの小説作品が映像化されました。小説を読むのは苦手だけど、映画やアニメなら楽しめる！という方も、多いのではないのでしょうか。

今回は図書館学生ボランティアより、過去に映像化された小説を3冊ご紹介します。ぜひお楽しみください。



近畿地方のある場所について/背筋

「近畿地方のある場所について」はひとつの“場所”をテーマにしたホラー小説です。文章群という体裁で出版されたこの作品はその異質さで大きな話題を呼び、2025年8月に実写映画化を果たしました。メディアミックスによって、より広く知られることとなったこの作品ですが、単行本と、2025年7月に発売された文庫本の内容が違うことをご存知でしょうか。

単行本、文庫本、映画ではそれぞれ中心となる人物が異なっており、それにより結末にも大きな違いが生まれています。近畿地方のある場所について調べていく末に、物語の主人公たちが何に行き着くのか。それは読者である私たちにとっても無関係とはいえないかもしれません。

近畿地方のある場所について、情報をお持ちの方はご連絡ください。

谷村 和花(1年経営情報学科)

化物語/西尾維新



『化物語』は、主人公・阿良々木暦が怪異に悩まされる少女たちと出会い、その問題に向き合いながら解決していく物語です。アニメ化もされており、現在でも新作が制作されるほど根強い人気を持つシリーズです。

春休みに起きた吸血鬼事件をきっかけに、怪異というものを知ります。そんな彼の前に、怪異によって心や身体に異変を抱えた少女たちが現れ彼女たちに寄り添いながら問題を解決していきます。

怪異という非現実的なテーマを扱っていますが、物語の中心にあるのは登場人物の悩みやトラウマ、といった心の部分です。そのため、強く共感する、心に響くエピソードが多く含まれています。

テンポのいい会話や、言葉遊びを効かせた独特の文章表現も大きな魅力で、この作品ならではの読み味があります。アニメ版は、文字や実写映像を効果的に取り入れた個性的な映像表現が特徴で、特に実写シーンは怪異の不気味さや登場人物の心象を強く印象づけています。図書館にも所蔵されているので、ぜひ一度手に取って読んでみてください。

石川 愛夏(1年経営情報学科)

羊と鋼の森/宮下奈都



高校時代、主人公・外村直樹は、体育館のピアノを調律しに来ていたとある調律師と出会う。この偶然の出会いをきっかけに、同じく調律の道へ進むことを決意した外村。数々のピアノに触れ、様々な想いを抱く奏者と接していく中で、調律師として、また一人の人間として、彼はどのように成長していくのか……。

2016年に「本屋大賞」を受賞した、宮下奈都さんの代表作です。ピアノ好きにはもちろんおすすめですが、やりたいことが見つからない人や何となく行き詰まっている人なども、主人公・外村の歩みを見守っているうちに、なにか前向きなものを感じられるのではないかと思います。ぜひ読んでみてください。

また、この作品は2018年に映画化されています。主演・山崎賢人さんの儂く透明感のある、かつ必死さが十二分に伝わってくる演技が見どころです。小説と併せて、こちらもぜひご覧ください。

吉永 絢音(1年経営情報学科)

第7回 図書館ポスターコンクール入賞者発表！

読書の楽しさや本の魅力をポスターにして気持ちを伝えることをテーマに毎年行っており今年は12作品の応募がありました。ご応募ありがとうございました！

学校内の学生と教職員を対象としたformsによる投票によって、最優秀作品、優秀作品、佳作が決定しました。

結果

最優秀賞：「花と眠る王子(星の王子様より)」吉村 なぎ (4年物質工学科)

優秀賞：「本で創る、私だけの世界。」山崎 花帆 (5年制御情報工学科)

優秀賞：「万感」藤本 彩来 (3年物質工学科)

佳作：9名

※受賞者には、賞品(図書カード)が授与されました。



最優秀賞、優秀賞を受賞された方にお話を伺いました！



最優秀作品

「花と眠る王子(星の王子様より)」

4年物質工学科 吉村 なぎ さん

今回初めて応募したんですが、絵を書くことが好きなのと本を読むことが好きなのでこのようなイベントを企画してくださった人たちに感謝したいです。ポスターの工夫したところは色鉛筆で描いたんですけど、色をたくさん重ね塗りしてるのところが表情のこだわりました。皆さんへは学校の図書館には面白い本とかいろいろな専門書がたくさんあると思うのでもっとたくさん利用してほしいなと思います。

優秀作品

「本で創る、私だけの世界。」

5年制御情報工学科 山崎 花帆 さん

入賞した感想として自分は今年度で卒業なんで最後に大きな賞をいただけて大変嬉しく思います。ポスターの思いとして自分は結構本から知識だったり想像力だったりっていうのをその身に得ているのでそういったところを自分の好きなファンタジー調で表現したいということでこのポスターを書きました。工夫した点については、図書館は静かなイメージがあるのでそういったものを静かな色味を使って表現をしたっていうのと自分が蝶が好きだったのでそういったところも組み込んで工夫しました。最後にメッセージとして読む方によってつける知識だったり想像力だったりっていうのは人それぞれなんで皆さんもこのポスターを機にいろんな本をたくさん読んでいただけたらなと思います。



優秀作品

「万感」

3年物質工学科 藤本 彩来 さん



入賞してとても嬉しいです。私は1年生の頃からずっと出していて毎回何かしらの賞をいただいているのでとても嬉しいです。ポスターの思いは、有名な絵画が動いてパロディされたら面白いかなと思って描きました。また、その本の面白さを伝えなかったら本でしか得られない驚きとかそういう面白さを伝えられたらいいかなと思って描きました。ポスターの工夫したところは、「写楽」風で書く人があんまりいないかなと思って選んだことと驚いた顔を表現しているところと服の中に本当は違う文字が入っていたんですけど驚いてる顔を表現したかったので驚きっていう文字に変えたところです。一言は私もすごい本を読む人間ではないんですけど、学校の図書館はすごい使いやすいたくさんの方に出会えるのでぜひ利用して欲しいなと思います。

河口 由里亜 (2年物質工学科)、村上 慧奈 (2年物質工学科)

Book hunting

ブックハンティングとは、図書館に置く本を実際に書店に訪れて選ぶ企画です。是非参加してみてください！

もし世界から言葉が消えたら



残像に口紅を/筒井康隆

五十音の中で使える音が一つずつ減っていき、主人公の人生と、この小説自体の構造が同時に崩壊していく。大切な人も、思い出の場所も、「音」を失う度にこの世から消えてしまった。一方で小説そのものも、「文字」を失う度に不完全な文章へと変貌していく。「主人公の人生」と「それを記す手段」は表裏一体の関係で、互いを侵食しながら取り返しのつかない破綻へ近づいていった。

兼島 綾那 (1年物質工学科)



思いのままに誰にでも



Blender 3Dアバターメイキング・テクニック/ Benjamin

インストールの仕方から基本操作、モデリング、作ったアバターの利用方法までこれ一冊で実現可能！
Blenderは無料配布で気軽に始められ、デザイン、アニメーションなど凝れば凝るほどその沼にハマっていく。

伊藤 菜那 (1年制御情報工学科)



祈りのカルテ/知念実希人

新米医師の諏訪野良太は、初期臨床研修で様々な科を回っています。研修医の初心な一生懸命さで5人の患者のヘルプ、家族愛、優しいウソなどの胸に秘めた「おもい」に気づき寄り添っていく。患者たちの祈りと若き医師の成長が描く感動の医療ミステリをぜひ手に取ってみてください。
共感性の高すぎる諏訪野は「逆に自分が苦しくなってしまうよ」と言われる場面も。考えすぎてしまう人もそうでない人にも寄り添ってくれる作品です。

富永 咲愛 (1年物質工学科)



「おもい」に寄り添い
謎を解き明かす



四人の視点が
織り成すミステリー



クワトロ・フォルマッジ/青柳碧人

クワトロフォルマッジとは、4種類のチーズが乗ったピッツァのことだ。
ある日店内で起きた殺人事件に、個性的な従業員たちへと次々に視点を変える。それぞれの登場人物には裏の顔がある様で？！ちょっぴりお腹が空くミステリー、あなたも頂きませんか？

折田 恵都 (4年物質工学科)



ブックログ本棚、ご存知ですか？

学内・学外どこからでもアクセス可能！

図書館の特集コーナーにある本を、いつでもどこでもチェックしよう！

図書館の特集テーマが変わるのに合わせて更新されるので、忙しくて図書館に行けないときでも、どんな本が紹介されているか気軽に見ることができます。

—ブックログへのアクセスのしかた—

1. 宇部高専ホームページTOPから図書館へ
2. 特集→宇部高専図書館の特集コーナー



こちらからも
アクセスできます！



永安 彩星、長谷川 遼(ともに3年経営情報学科)

—編集後記—

図書館だより第133号をお読みいただき、ありがとうございます。今号は、図書館ポスターコンクールやブックハンティングなど、図書館に関わるさまざまなイベントの様子をお伝えしました。どれも、本や図書館をより身近に感じていただける取り組みとなっています。本号をきっかけに、図書館や読書、そして図書館学生ボランティアの活動に少しでも興味を持っていただけたら幸いです。

最後に、イベントの実施や取材にご協力いただいた先生方、関係者の皆さまに心より感謝申し上げます。
八鍬 青羽(4年制御情報工学科)

ひととき

一般科 池田 晶 先生

—好きな本のジャンルは何ですか？

特定のジャンルを決めるのは難しいのですが、面白そうだな、と思ったものを手に取る感じです。推理小説や歴史もの、ドキュメンタリー、紀行もの、様々あります。また、言葉自体に興味があるので、（たとえ勉強しなくても！）様々な言語の本を集めてしまいがちです。

—おすすめの本は何ですか？

中村吉広さんの『チベット語になった「坊っちゃん」—中国・青海省 草原に播かれた日本語の種』です。チベットに留学することになった著者が、チベットで体験したカルチャーショック、中国とチベットのかかわり、チベット語と日本語のかかわりについて書かれています。日本語とチベット語の語順がとても似ているということで、チベット語に興味を持ち、思わず学びたくってしまいました。

—高専の先生になったきっかけは何ですか？

どうしてでしょうね（笑）これをやりたい！という感じではなく、なんとなく興味があったものに触れるうちに、自然と今に至った、という感覚です。小学5年生の理科で星座を学び、ギリシア神話との関係や、ファミコンのキャラクターは神話の登場人物やモチーフが使われていると知り、面白く感じました。また、家にあった子供向けの西洋古典集で旧約聖書物語を読み、アレ？なんだかギリシア神話に似ているな、いうことに気づき、ギリシア神話や聖書物語についてもっと知りたくなりました。



学生時代には、旧約聖書を専門にしている先生の下で学ぶことになり、旧約聖書はヘブライ語で書かれているので、ヘブライ語を学びました。そこから、ヘブライ語そのものに興味を持つようになり、いつの間にか専門分野になったという感じです。

理科の時間に持った興味が言語の世界に通じていたのですね。

—行ってみたい国はどこですか？

国と言うよりも、ツンドラやタイガ、大草原、砂漠のある所に行ってみたいな、と思います。ただし超安全装備で！基本的にはインドア派の私ですが、なぜか、そのようなところに憧れがあります。大自然の中で見上げる星空、どんなにきれいだろう、と想像してしまいます。

—学生に一言

「若いということは、本当にいいことですよ」と言うことです。皆さんくらいの頃に言われたときは全くピンと来ておらず、そんなにいいことなのかな、と思っていましたが、今となっては、とてもよくわかり、私自身がそのようなことを言うような年齢になってしまいました。ヘブライ語では、「若い」に関する言葉を na'ar(ah)と言いますが、年齢的な若さのほかには、「可能性を秘めた」と言う意味もあります。とても素敵な言葉ですよ。若さ、若い時代をぜひぜひ大切に過ごしてほしいな、と思います。

担当/福澤 佑樹(4年電気工学科)、八鍬 青羽(4年制御情報工学科)